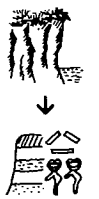
険

五年

画数 11
筆順 阝 阝 阝 険
オン ケン
クン けわ＝しい

成り立ち



人々が言い合って、多くの意見の中から〝選ばれた〟意見、という意味の〝僉（験 4年 507）〟と〝崖〟の形を表した〝阝〟とを組み合わせて作った字です。

「多くの崖の中でも、とくに崖らしい崖」という意味の字で、「〝けわしい〟崖」という意味を表したものです。今では、〝けわしい〟という意味につかっています。例険阻。

険しい崖は〝危ない〟ので、〝あぶない〟という意味にも使うようになりました。例危険、険路、冒険。

また、顔が〝きつく、とげとげしい〟ことを表すのにも使います。例険相、険しい顔。

使い方

▽険しい山道を登って行く時は苦しいですが、それなりの楽しみがありますし、頂上に立った時の気分は、口ではとても言い表せないものがありますので、あえて険阻な山に挑戦するのです。

熟語例

▽険阻（阻は崖が重なり合っている所。険しい所。崖や山が〝けわしい〟ことを表したことばです。）

▽危険（危も険も〝あぶない〟という意味です。「とても〝あぶない〟」こと。）

▽冒険（「危険を冒す」こと。危険であることを知りながらあえて危険なことをすること。冒は、しない方がよいと知っていながらあえて行うことです。）

▽険路（険しい道路。危険な道路。）

▽保険（「危険の損害を保証する」という意味のことば。万一の損害にそなえてお金を払い、損害があった時にお金をもらうしくみのこと。）

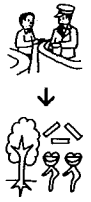
▽険相（とげとげしい〝きつい〟顔。険しい人相。相は、人相のことで〝顔つき〟という意味）

検

五年

画数 12
筆順 木 木 木 検
オン ケン
クン

成り立ち



人々が意見をのべ合い、その意見をよく〝調べ〟て、「正しい意見を選ぶ」ことを表した〝僉（験 4年 507）〟と〝札（木のふだのことで、〝文書〟の意味。紙のなかった昔、木のふだに文字を書いたことによります）〟の意味の〝木〟とを組み合わせて作った字です。

「多くの文書をよく〝調べ〟て、その中から正しい事実を選び出すこと」を表した字です。〝調べる〟という意味に使われています。例検討、検査、検閲、検診、検札。

また、「取り調べる」意味から、「取り締まる」意味にも使われるようになりました。例検束。

使い方

▽南極探検の記録映画を見ましたが、南極って大変な所だと思いました。未知の所ですから、調べなければならない事はたくさんあるでしょうが、大変に危険な所ですから、探険と書いてもいいなと思いました。

熟語例

▽探検（未知の所に入りこんで、探り調べること。多くは危険をともないますから、〝探険〟と書きたくなりますが、「探り調べる」意味のことばですから、やはり〝探検〟と書くべきです。）

▽検討（討（6年 966）は「正しい道理を求める」こと。多くの面から調べてみて、良いかどうかを考えることです。）

▽検査（査（5年 714）も〝検〟と同じ意味の字。物事の状態を調べること。とくに、悪い所を見つけようとして全体的に調べることに使います。）

▽検診（病気にかかっているか、いないかを調べるための診察のこと。）

▽検札（この〝札〟は〝切符〟。乗客が切符を持っているかどうかを調べること。切符の検査）